

平成23年度 所蔵作品展

岡本秋暉とその師友

2011年4月26日(火)
— 6月5日(日)

会場 = 千葉市美術館 7階展示室
休館日 = 会期中無休
開館時間 = 10:00-18:00 [毎週金・土曜日は20:00まで]
* 入場受付は閉館の30分前まで
観覧料 = 一般200円(160円) / 大学生150円(120円)
千葉市内在住60歳以上、千葉県在住65歳以上の方、
小・中学生、高校生および障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名
は無料
* 「ボストン美術館浮世絵名品展」に入場された方は無料
* ()内は、団体30名様以上の料金

同時開催 2011年4月26日(火) - 6月5日(日)

「ボストン美術館浮世絵名品展
錦絵の黄金時代 - 清長、歌麿、写楽」

千葉市美術館
Chiba City Museum of Art

岡本秋暉《百花一瓶図》19世紀
擴水軒記念文化振興財団蔵



Shuki and his friends

おかもとしゅうき
岡本秋暉(1807-62)は江戸時代後期に活躍した画家で、鳥、特に孔雀を得意としました。江戸の町人出身で小田原藩士の養子となった秋暉は、江戸中屋敷に勤務するかたわら、藩の御殿を飾る障壁画を制作したり、また絵師として藩とは関係なく注文を受けたりしていました。弘化3年(1846)頃には下総柏村(現在の柏市)の名主寺嶋家に逗留して作品を残しています。多くの文人墨客が寺嶋家を訪れており、寺嶋邸すなわち「摘翠軒」は当時の柏の私塾であり文化サロンでした。今回は「摘翠軒」をルーツとする摘水軒記念文化振興財団の所蔵品を中心に岡本秋暉の作品を15点展示します。

鳥の羽根の美しさを描き出す秋暉の画風は、中国人画家沈南蘋の画風を学んだものでした。南蘋の精緻な描写と華麗な彩色は江戸時代中期以降の日本絵画に大きな影響を与えています。今回は特に秋暉との結びつきが強い、宋紫石ら江戸で活動した南蘋派の作品を展示して、秋暉の画風の源流をたどります。

また秋暉は渡辺華山、椿椿山と親しく交わっていました。華山の師、谷文晁は文人画(南画)の他さまざまな画派を学んだ、江戸時代後期の非常に重要な画家です。秋暉と関係の深い谷文晁系の画家と作品も紹介します。下総金堀村(現在の船橋市金堀町)から江戸へ出て活躍した文晁系の画家、鈴木鷺湖(1816-70)の作品も合わせてご覧ください。秋暉と鷺湖には共通の知人も多く、面識があったものと思われます。

「1 江戸の南蘋派」「2 岡本秋暉」「3 谷文晁から鈴木鷺湖へ」の3部構成により、岡本秋暉とその師系および親交のあった画家たちの作品を展示します。



1.



2.



3.



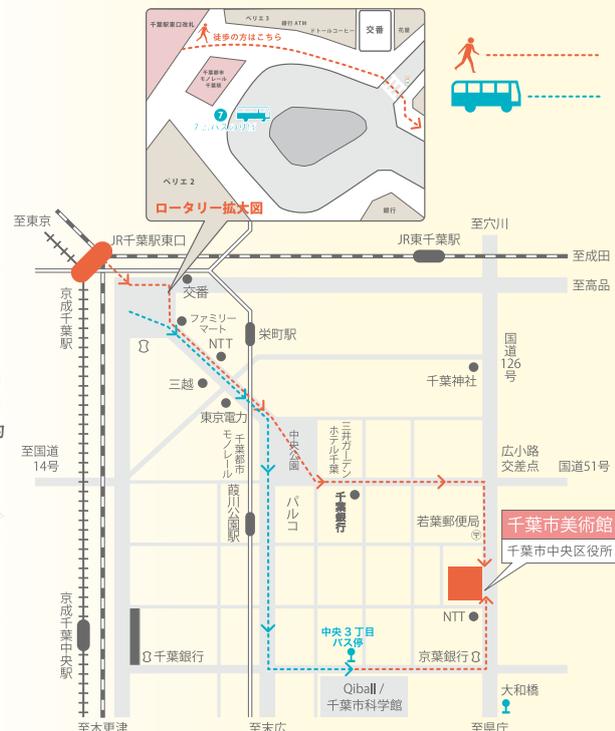
4.

— 関連企画 —

平成23年度 第1回 市民美術講座
「岡本秋暉と花鳥画」
講師:伊藤紫織(当館学芸員)
5月21日(土) 14:00より
11階講堂にて 聴講無料 先着150名様

交通案内

- ◇JR千葉駅東口より
徒歩約15分 / バスのりばのより大学病院行、または南矢作行にて「中央3丁目」下車徒歩約3分 / 千葉都市モノレール県庁前方面行「観川公園駅」下車徒歩約5分
- ◇京成千葉中央駅東口より徒歩約10分
- ◇東京方面から車では京葉道路・東関東自動車道で宮野木ジャンクションから木更津方面へ、貝塚IC下車国道51号を千葉市街方面へ約3km、広小路交差点近く
- ◇千葉市中央区役所と同じ建物です
- ◇地下に区役所と共有の駐車場がありますが、台数に限りがあるためなるべく公共の交通機関をご利用ください。



千葉市美術館 Chiba City Museum of Art

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8
Tel. 043-221-2311 (代) <http://www.ccma-net.jp>



1. 岡本秋暉《孔雀図》嘉永6(1853)年 個人蔵
2. 鈴木鷺湖《西園雅集図》文久元(1861)年 千葉市美術館蔵
3. 金子金陵《秋雨鶏雛図》寛政期(1789-1801) 個人蔵
4. 宋紫石《雨中軍鶏図》明和8(1771)年 個人蔵